

I 自己評価

I 評価結果 ○は達成 ●は未達成

項目	成果と課題（達成状況）	評価
落ち着いた学習環境づくりの推進と学習意欲の向上、生徒の進路保障	○「主体的な学び」「生徒に学びを委ねる」等の授業改善に取り組み、ほとんどの生徒は落ち着いて学習に取り組んだ。 ○毎週各教科の基礎学習定着の取組を行い、小テストを実施した。 ○全国・県調査及び自己診断テストでは取組の成果が見られた。 ○1年生に学び直し等の支援を美作大学生スクールフレンドと行うと共に、生徒一人一人に適切な進路支援を行った。 ●数年来、家庭においてスマホやゲームの時間が多く家庭学習1時間以上の割合が低いなど生徒のタイムマネジメント・自己管理能力が課題である。狭義の家庭学習の内容の捉え方を広義の生涯学習的な内容に転換する必要がある。 ●生徒に全国・県学力調査で標準スコア 50 を超える基礎学力をつける。特に次年度の3年生全国調査の理科の取組を徹底する。	A
規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立	○生徒指導の三本柱「時を守り」「場をきれいにし」「礼をつくす」を教職員・生徒ともに意識し行動できた。また、生徒が自ら計画して時間・そうじ・あいさつ等のキャンペーンに積極的に取り組んだ。 ○いじめ対策基本方針に沿ったいじめを許さない学校づくりに取り組み未然防止に努め、早期把握、早期対応することができた。 ○生徒が中心となり、制服登校と体操服登校を選ぶことができるセレクト登校等校則の見直しを推進した。 ●毎年必ず発生している SNS の不適切な使用については、情報モラル教育や啓発だけでは課題の解決までに至っていない。生徒・保護者が我がこととして考えるような教材の開発や関係機関との連携が必要である。	A
好ましい人間関係の構築と思いやりの心の育成、ともに高め合い・学び合う集団づくりの推進	○授業では、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学級活動や教科時のペア学習やグループ学習を行い学び合う集団づくりを行った。 ○「自立応援室」の活用により適切な支援ができ、生徒が自分のペースで登校し、居場所があり安心して過ごすことができた。 ○SC や SSW、関係機関と連携し適切に長期欠席者・不登校等生徒・保護者を支援した。 ○自分たちの手で学校を創っている、学校を変えることができるなどの生徒の思いにより、校則等の見直し等が進んだ。 ●長期欠席者・不登校等生徒・保護者へのより効果的な支援（例 確実な進路等の情報提供）、要支援家庭の関係機関との緊密な連携と具体的な情報提供が課題である。	B
保・幼・小・中・高・高専・大学等との連携、家庭・地域等との連携による教育活動の充実	○中学校へのスムーズな接続のため、小中連携は、数学・生徒指導 特別支援教育・不登校支援等で実施し、各担当で情報交換を行った。 ○2年生は有意義な職場体験学習ができ、地元企業等とも連携することができた。事前講座として商業高校の先輩から助言を受けた。 ○各種便り・メール・ホームページ等で情報発信した。 ○月1回、健全育成団体や民生委員・児童委員の方に、あいさつ運動等で安全安心の学校づくりに協力していただいた。 ●「地域と共にある学校づくり」コミュニティ・スクールの認知度を高めると共に機能化が課題である。中学校としての学校運営協議会のあり方について確認することが重要である。	B

(A:目標を上回っている B:ほぼ目標どおり C:目標を下回っている)

II 分析・改善方策

- ・生徒主体の授業実践、ICT 機器を使った授業改善と学びのサイクルを徹底し、学び直しを行う。
- ・生徒の自治活動をさらに充実させ、自治的実践力の向上、集団づくりと学校づくりを行う。

2 学校関係者評価委員会（学校運営協議会委員が兼ねます）

真木 茂（学識経験者） 大山 正志（町内会長） 光井 俊之（保護司）
北山 浩二（学識経験者） 草替 康弘（健全育成団体） 林 誠子（主任児童委員）
白石まこと（PTA 会長） 大土井亮輔（地域学校協働活動推進員）

3 学校関係者評価

- 自己肯定感がまだまだ低いと思う。AI ドリルを活用できてない。SWOT分析を見ると強みにも弱みにも掲載されているものがある。教職員の負担をなんとかしないといけなように感じる。小中連携が弱いところは改善の余地があるのではないかな。
- 学校公開等を通して授業の様子や学校全体を拝見しましたが、成果として挙げられていることを感じています。チャイムが鳴る前に着席し、落ち着いて授業に取り組み、整理も行き届いていて、参観をしている私に挨拶してくれる生徒もいました。
- すべての生徒がよくわかる、楽しい授業する事は、教師の生命線である。教材研究が大切であり、そのための努力を常日頃から行わなくてはならないと思う。
- スマホの問題や家庭学習などは保護者が主体的に対応すべきかと思います。
- SNS の不適切な使用については、情報モラル教育や啓発だけでは限界があると感じられているが、繰り返し、繰り返し何度も情報モラル教育が必要であると思う。
- 不登校や長期欠席者が全国的な問題となっていますが、学校の中で安心して過ごせるスペースを設けられたり、生徒や保護者への支援の取り組みなど努力されていたりすることを評価したいと思います。
- 長期欠席生徒や不登校等生徒への対応は、一人一人すべて事情が異なります。また、それぞれ個々人のケース会議が必要であり、その会議の構成メンバーも同じではありません。この問題は年々増加の傾向にあり、先生方の負担も大きくなってきています。今後このための専門の機関が必要であると考えます。
- 学校運営協議会の認知が低いので、保護者や地域の方々にもっとコミュニティ・スクールについて知ってもらうことが必要だ。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 教員が生徒の協働的伴走者としての役割を担う授業づくり、生徒の「個別最適な学び」「協同的な学び」「主体的な学び」のための授業改善を行うために、現状の評価の基、計画的に校内研修を進めたい。
- 9年間を見通した小中連携で、さらに「育ち」と「学び」をつなぐ必要がある。（数学を中心とした教科指導と特別支援教育・不登校児童等を中心とした生徒指導の連携等）
- 家庭学習の充実については、内容の転換を図り、狭義の教科の家庭学習ではなく、広義の生涯学習の分野も含めたものに広げることを推進していきたい。
- ICT活用（1人1台端末含）はより効果的な活用方法を取り入れ、充実させていきたい。県内外のChromebookの有意義な活用の研究を進めたい。
- 新入生の「学び直し」は、大変重要であり、わからないところをわかるようになるための支援をしていきたい。そのことが生徒の進路選択の幅を広げることにつながる。美作大学や津山高専等と連携して継続して水曜日の放課後学習に取り組む。
- 基本的な生活習慣については、今年度もメディアコントロールに引き続き課題があった。SNS等の適切な使用は、北陵ブロックの保幼に依頼し、保護者の方への啓発やスマホ・ゲームのルール作りを徹底して進めたい。
- 自己肯定感・有用感・効力感を高め、自分の適性に合った将来像がもてるよう、学校行事や体験活動等を工夫して行いたい。自分の進路を拓き、社会をたくましく生き抜く力を育むために、小学校や高校・高専・大学や地域と連携した教育活動を工夫したい。身近な大人と良い出会いをさせたい。
- より体験活動や道徳教育を充実させ、生徒に自己指導能力を身に付けさせたい。規範意識の向上のために生徒自ら現状を認識し、改善できるよう働きかけたい。生徒主体の学校づくりを行うためにも今後継続して校則の見直しを行う。いじめについては、基本方針に沿って取り組み、関係機関等とも連携し、未然防止や適切な対応を行う。
- 「コミュニティ・スクール」は、地域学校協働活動の実施だけではなく、学校課題や教育課題について学校がきちんと運営協議会委員に説明し、課題解決に向けた熟議を行い、協議会が提言を行うことが必要である。「コミュニティ・スクール」を機能化させ、保護者・地域に気軽に学校に足を運んでいただき学校の実情を知っていただくとともに、保護者、地域と一体となった学校づくりを進めていきたい。「不登校・長期欠席生徒」「部活動の地域連携・移行・展開」「要支援生徒・保護者」の対応について熟議を行う。